

令和3年度水稻栽培講習会資料

〈適切な栽培管理により安心安全で、低コスト・高品質な一等米作りに努めましょう〉

JA東とくしま農業振興対策部

【普通期】

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月																				
生育ステージ <small>キヌヒカリ 5/30植え 付け事例</small>	幼穂形成期 (出穂25日前) 減数分裂期 (出穂15日前) 穂ばらみ期 (出穂7日前)		登熟期	収穫 9月10日頃	収穫後の耕うん ・石灰窒素20kg/10aまたは根友G 20kg/10aまたはアグリ革命2kg/10aを施用し、稲ワラが隠れる程度浅く耕うんする。 (ワラの腐植には酸素が必要) ・ロータリーの回転速度は高速回転(浅く耕うん 抵抗かけすぎない)		2回目耕うん (深耕) 3回目耕うん (土壌改良材投入の時期)																					
水管理	※この時期は水をきらさないこと 				【参考】品種特性表 (天候によりかわることもある) <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>品種名</th> <th>田植期</th> <th>幼穂形成期</th> <th>出穂期</th> <th>成熟期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>キヌヒカリ</td> <td>5月30日</td> <td>7月11日</td> <td>8月4日</td> <td>9月10日</td> </tr> <tr> <td>コシヒカリ</td> <td>5月10日</td> <td>7月3日</td> <td>7月26日</td> <td>8月30日</td> </tr> <tr> <td>あわみのり あきさかり</td> <td>6月5日</td> <td>7月19日</td> <td>8月12日</td> <td>9月16日</td> </tr> </tbody> </table>				品種名	田植期	幼穂形成期	出穂期	成熟期	キヌヒカリ	5月30日	7月11日	8月4日	9月10日	コシヒカリ	5月10日	7月3日	7月26日	8月30日	あわみのり あきさかり	6月5日	7月19日	8月12日	9月16日
品種名	田植期	幼穂形成期	出穂期	成熟期																								
キヌヒカリ	5月30日	7月11日	8月4日	9月10日																								
コシヒカリ	5月10日	7月3日	7月26日	8月30日																								
あわみのり あきさかり	6月5日	7月19日	8月12日	9月16日																								
管理のポイント	管理のポイント(その1) 穂肥の施用 (1) 元肥一発肥料施用田では基本的には必要ない。 (なお、天候により穂肥が必要となる場合がある。※要相談) (2) 穂肥時期は、コシヒカリでは出穂の15日前(幼穂長3cm)、キヌヒカリ・あわみのり・あきさかりは出穂の21日前(幼穂長0.5cm)頃に行う。 施用例) BBみのり10~15kg/10a BBNK52号10~15kg/10a おてがるくんNK10~15kg/10a ※留意点 ①過剰な施用は食味を悪くするため、施用量に注意する。 ②カラスケールによる施肥診断 葉色は太陽を背にし、3m離れた位置から測定する。				管理のポイント(その2) 収穫の適期 (1) 籾の80%が黄化したときが適期。 (2) 出穂期(穂揃い期)をよく観察し、刈り遅れによる品質低下がないように十分留意する。 (3) 品質低下を避けるため、収穫籾袋は圃場周辺に長時間放置せず、短時間のうちに乾燥に移す。																							
	1) 中干し後は、間断灌水を基本とする。 2) 特に、穂ばらみ期から穂ぞろい期までは、水を切らさないよう注意する。 3) 穂ぞろい期以降も、間断灌水とする。				落水時期は収穫作業にさしつかえない限り遅らせる。 ※登熟期の水分不足は未熟粒の増加や収量、品質の低下を招く。																							
	管理のポイント(その1) 穂肥の施用				◎幼穂の大きさと穂肥の施用時期 																							
	BBみのり施用の場合 (kg/10アール) <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>葉色</th> <th>穂肥の要否</th> <th>キヌヒカリ・あわみのり</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3.5以下</td> <td>極めて必要</td> <td>20kg</td> </tr> <tr> <td>3.5~4.0</td> <td>かなり必要</td> <td>15kg</td> </tr> <tr> <td>4.0~4.5</td> <td>必要</td> <td>10kg</td> </tr> <tr> <td>4.5~5.0</td> <td>ほとんど必要なし</td> <td>5kg</td> </tr> </tbody> </table>				葉色	穂肥の要否	キヌヒカリ・あわみのり	3.5以下	極めて必要	20kg	3.5~4.0	かなり必要	15kg	4.0~4.5	必要	10kg	4.5~5.0	ほとんど必要なし	5kg									
葉色	穂肥の要否	キヌヒカリ・あわみのり																										
3.5以下	極めて必要	20kg																										
3.5~4.0	かなり必要	15kg																										
4.0~4.5	必要	10kg																										
4.5~5.0	ほとんど必要なし	5kg																										

病 害 虫	発生	病害	葉いもち・紋枯	穂いもち・もみ枯細菌	
	時期	害虫	カメムシ・コブノメイガ・ニカメイチュウ・ウンカ・ヨコバエ	カメムシ・ウンカ・イネツトムシ ツマグロヨコバイ・コブノメイガ	
	月		7月	8月	9月
	基 幹 防 除		<p>リンバー粒剤 3~4kg/10a (収穫30日前まで、2回以内) *適期は出穂30日前~出穂期</p> <p>いもち病発生圃場では・・・ コラトップ粒剤5 3~4kg/10a</p>	<p>(カメムシ類・ウンカ類・ツマグロヨコバイ・ ニカメイチュウ・ドロオイムシ) キラップ粒剤 3kg/10a (収穫14日前まで、2回以内) *出穂10日前~出穂期にかけて散布適期 又は、 スタークル粒剤 3kg/10a (収穫7日前まで、3回以内) *出穂後7日~10日以内に散布する</p>	<p>キラップ粒剤 3kg/10a (収穫14日前まで、2回以内) *出穂10日前~出穂期にかけて 散布適期 又は、 スタークル粒剤 3kg/10a (収穫7日前まで、3回以内) *出穂後7日~10日以内に散布 する</p>
防 除	補 完 防 除	<p>○本田中後期</p> <ul style="list-style-type: none"> いもち病・もみ枯細菌 コラトップ粒剤5 4kg/10a (出穂30日前から5日前まで、2回以内) いもち病 ビームソル 1,000倍 (収穫7日前まで、3回以内) 紋枯病 バリダシン液剤5 1,000倍 (収穫14日前まで、5回以内) 	<ul style="list-style-type: none"> いもち・紋枯・ごま葉枯・ツマグロヨコバイ・ ウンカ類・カメムシ類 イモチエーススタークル粒剤 3kg/10a (収穫35日前まで、1回) カメムシ類・コブノメイガ・ウンカ類 トレボン乳剤 1,000倍 (収穫14日前まで、3回以内) コブノメイガ・イネツトムシ・ツマグロヨコバイ ウンカ類 パダンバッサ粒剤 4kg/10a (収穫30日前まで、5回以内) 	<p>☆収穫後は耕うんを！☆</p> <p>① 収穫直後もしくは台風前には稲ワラを土中に入れ、圃場外への流出を防ぐ。この際、石灰窒素(20kg/10a)を施せばワラの分解を促す。</p> <p>② 難防除雑草(オモダカ・クログワイ等)については、秋冬期の耕耘によって塊茎等の死滅をうながす。</p> <p>③ 難敵のジャンボタニシを破碎できる。浅く、作業速度は遅く、ロータリーの回転を速くする。(ロータリーに負荷をかけすぎないこと)</p>	
そ の 他	<p>【ワンポイント】カメムシ類対策の草刈り 出穂10~15日前までに水田周辺の畦畔や堤防の雑草の刈り取りを行う。刈り取った雑草は放置するとカメムシ類のすみかとなるので、集めて処分する。 (出穂直前の刈り取りはカメムシ類を水田に移動させてしまうので注意)</p> <p>【ワンポイント】キシウスズメノヒエ(よばい草)対策 稲刈り後にラウンドアップマックスロード50倍を発生している場所に散布する。 (または、デゾレートA(水溶剤)または、デゾレートAZ粒剤)</p>				
備 考	いもち病	葉いもち病は窒素過多で軟弱徒長気味の成長をし、日照不足で25℃~26℃の温度が発生の好条件。			
	紋枯病	窒素過多や密植または過繁茂となり高温(30℃~32℃)で多湿の場合に発生が多い。			
	カメムシ類	被害が多い発生田では必ず防除する。検査時に、着色粒(斑点米)が、中型カルトンに2粒以上混入していると2等に格落ちする。			
◎JA東とくしまでは、買い取りによる有利販売ができるよう努めてまいりますので、1袋でも多くの出荷をお願いします。					
◎JA東とくしま産米の信頼向上と、売れる米のため生産履歴の記帳と提出をお願いします。					



イネクロカメムシ(体長約10mm)



アカスジカスミカメ
(体長5~7mm)



ホソハリカメムシ
(体長9~11mm)



ミナミアオカメムシ
(体長12~15.5mm)

農薬散布の飛散に注意